

くさかった 奈良

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

ある日のこと、おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。おばあさんが川で洗濯をしていると、川の上のほうから、大きなおいもがどんぶらこっこすっこっこ、どんぶらこっこすっこっこと流れてきました。おばあさんは、よろこんでおいもを拾ってうちに持ってかえりました。そして、焼いもにして、おじいさんの帰りを待っていました。

いくら待ってもおじいさんは帰ってこないし、おばあさんは、お腹がすいてたまりません。あんまりお腹がすいたので、おじいさんの帰りを待ちきれず、ひとりでおいもをぜんぶ食べてしまいました。

すると、お腹が大きくなって、お腹が張って、ぶうっとおならをしてしまいました。山ではおじいさん、柴を刈らずに草刈った。ああくさかった、くさかった。

おしまい

原話…『奈良県吉野郡昔話集』国学院大学説話研究会

再話…村上郁

